

寒中お見舞い申し上げます。

旧年中は例年同様のご支援を頂き、誠にありがとうございました。2025年は当会の設立以来、25周年となる節目の年です。これを記念し、いろいろな行事が予定されています。昨年後半は、その準備に時間を割いてきました。今年が飛躍の年となりますよう、関係者一同努力する所存でございますので、会員の皆様、ご支援下さる皆さま、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。皆さまの幸多い一年をご祈念申し上げます。

2024年後半の活動

つくばみらい市たかさごマルシェに出店

当会の所在地である茨城県つくばみらい市では、同市にイノベーションセンターのある高砂熱学株式会社と協働で、毎年、「たかさごマルシェ」を開催しています。第8回目となるマルシェが晴天に恵まれた9月28日開催され、1000人以上の参加者が来場しました。キッチンカーの出店や地元農産物やクラフトの出品などのある中で、当会は市民活動団体として参加、圃場で育て



た苗の見本や、これまでの活動を示すパネルなどを展示、植樹に関わる活動の様子を伝えました。お子さんたちは展示されたどんぐりや丸太の年輪などに興味を示し、大人の方々は展示パネルの内容に興味を示され、多くの会話が弾みました。

国際シンポジウム（宮脇の森づくり）開催される

10月10日(木)～10月11日(金)、「国際シンポジウム・宮脇の森と都市林再生」が横浜国立大学で開催されました。詳細は下記の通りです。国内外からの大学、学校、NGOなどの発表者が登壇、宮脇方式に特化した様々な活動を報告しました。当会理事で横浜国立大学名誉教授・藤原一繪先生も実行委員長として活躍、当会からも理事長・石村章子が参加、筑波山で18年間実践している筑波山水源の森づくり（針葉樹林を間伐除伐し、樹間に生態系に適った広葉樹の幼苗を植え、針広混交林へと誘う）を発表しました。シンポジウムの様子は、鎮守の森のプロジェクトのホームページ・国際シンポジウム報告書

(<https://morinoproject.com/archives/8444>)で映像も含め知ることができます。開催の目的は、宮脇の森のグローバルな普及と持続可能な実施に向けた取り組みをさらに強化し、国際的な環境課題の解決に貢献することです。今後の広がりが期待されます。

主催：◆ムラレー・トゥマルクディ（国連 G20 グローバル・ランド・イニシャティブディレクター）
◆公益財団法人鎮守の森のプロジェクトプロジェクトプロジェクト
◆シンポジウム実行委員会

日時： 10月10日(木)、11日(金) 9:00～

場所： 横浜国立大学

参加国：27ヶ国（海外発表者：38名、海外参加者：49名、日本発表者：16名、日本参加者：46名）

アメリカ オーストラリア ベルギー イギリス ブルガリア カナダ チリ 中国 オランダ エストニア
フランス ドイツ ギリシャ インド インドネシア イラク イタリア 日本 ヨルダン ケニア レバノン
マケドニア メキシコ ネパール 南アフリカ 台湾 タイ

(概略:公益財団法人鎮守の森のプロジェクトホームページより抜粋)



英国から参加の Steve Warren - Brown さんは、宮脇方式の森づくりに感動、子供向けの絵本にして、森の大切さを伝えており、すでに5冊を編集しています。(写真中央の黒いシャツの人)
(写真・鎮守の森のプロジェクトHPより)



「My Wacky Forest」の中の見開きのページ、主人公・キノコの Super Mushi が様々な生き物、樹木や森の様子を楽しく伝えています。
(URL: www.mywackyforest.co.uk)

筑波山神社社報に掲載されました

筑波山神社の社報「耀歌（かがひ）」(令和6年11月1日号)に当会の活動が紹介されました。筑波山水源の森づくりの活動のみならず、「全国緑化行事発祥の地」での活動も触れて下さっていることに感謝の気持ちで一杯です。



筑波山水源の森づくり植樹祭

◎地球の緑を育てる会の紹介
 NPO法人地球の緑を育てる会は、平成十四年に法人格を得た森林ボランティア団体です。横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生(故人・令和二年逝去)

◎地球の緑を育てる会の紹介
 NPO法人地球の緑を育てる会は、平成十四年に法人格を得た森林ボランティア団体です。横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生(故人・令和二年逝去)

◎全国緑化行事発祥の地
 (筑波山麓鬼ヶ作国(有林))
 令和六年五月二十六日に岡山県で行われました全国植樹祭も今回で七十四回目となりました。この全国植樹祭の前身として植樹の重要性を提唱した徳川宗敬氏(中心となり、昭和九(一九三四)年に第一回愛林日植樹行事が筑波山麓で行われました。全国緑化行事発祥の地として平成二五(二〇一三)年に林業遺産として認定されて記念碑も建立されています。

NPO法人地球の緑を育てる会・筑波山神社・公益財団法人日本文化興隆財団共催による第十八回筑波山水源の森づくり植樹祭が令和六年五月二十六日に盛大に行われました。

この植樹祭は針葉樹林帯を間伐し、筑波山の生態系に適した広葉樹を植え水源の森としての働きをさらに強固にし、災害に強い森になるよう行われています。地球の緑を育てる会による筑波山での植樹は、平成十八(二〇〇六)年開始してから今年で十八回目となりました。間伐作業は周りの木などを傷つけないように特に慎重に行っています。針葉樹と広葉樹が共存共栄して緑豊かな筑波山となるよう願っております。

を顧問に迎え、植物生態系を回復する植樹事業や、地球緑化を具現化することを目的として活動しています。多くの樹種を組み合わせて高密度に植える生態系に配慮した森づくりの「宮脇方式」を取り入れた植樹をします。また、筑波山のほか、東日本大震災で被災された神社をはじめ中国やカンボジアなどの海外での植樹等幅広い活動をされています。




1970年開催された大阪万博の跡地は、森をつくることが提案され、京都大学出身の造園家・吉村元男氏が33歳で森の設計を担当、50年の歳月を経て、人の営みと自然とが調和した生物多様性の森へと形成されています。

写真家・畑祥雄氏は、この「万博の森」を多年にわたり撮影し続け、この度、写真集「奇跡の森 EXPO' 70」を発売されました。これを記念し、2月5日から2月28日まで、東京Kanzan Galleryにて写真展が開催されます。皆さま、是非、この写真展にご来場頂きたいと思います。詳しくは同封の案内書をご参照下さい。(この森の中から1500本が2025年の大阪万博「静けさの森」に移植されています。)

